

# 【ねがいはましては】

平成27年3月23日

KYOWA SCHOOL

第293号

「芯の強さ」

10数年ぶり、都内某所の小学校2校へボランティア授業に行っていました。計7日間、3クラス。校長先生で、その学校のムードが決まってしまうとよく言いますが、各教室のムードは、担任の先生で決まってしまうものなのかと、改めて感じさせていただきました。そのひとつのクラスでは、女の先生が担任です。20代後半なのでしょうか、まだまだエネルギッシュな雰囲気が伝わってきます。

毎日1時間ずつ4日間、教室はきちっと整理整頓され、後方の壁には、子どもたちの笑顔の写真が貼ってあります。「やはり子どもは笑顔が似合うな」と思いながら眺めさせていただきます。その小学校は2クラスであったため、2限目と3限目の境目、行間休みには20分間、子どもたちとふれあう時間がありました。そこで、折り紙の指導を子どもたちにしてもらいました。勲章という折り紙だそうで、児童が先生になるわけで、私は「先生、そのつぎはどうしますか・・・。」などと、逆転の立場で教えていただきました。屈託のない表情で、「つぎはね、ここをこうして・・・。」自慢げな表情は、ちょっとばかりいい気分の証拠・・・。立派に作品を仕上げることができました。「私の小学校3年生のときにも、こんな感じだったのかな・・・。」物思いに駆られてしまいます。

みんなが安心して、ここが居場所なんだよ、といった気持ちで毎日を過ごしているのだろうか、と、思ってしまう。

と、思ったら、突然、ある児童が「先生、廊下で4年生がけんかしてる、止めてください。」と、ヘルプコールです。あれっ、私はこの学校の関係者ではないのに・・・でも、でもね・・・というわけで、廊下に出てみると、2人の男子児童がにらみ合っています。ひとりは目に大粒の涙です。

「まあまあ、リラックスリラックス。」と、声をかけながらにらみ合っている片方の児童の肩に手をやって、もみもみ。そしてもうひとりに・・・と、そこへ担任の先生がやってきました。

先ほどとはまったく正反対の雰囲気の中に飛び込んでしまいました。「どこの学校にもあるんだなー。」と、身が引き締まります。

最終日、その女の先生のクラスの終わりに、一言しゃべらせていただきました。「〇〇先生も、きっと小学生の頃、すてきな先生に出会えたことで、今、先生になっているのだと思います。」と、言ったとたん、「いえ、私は全く逆なんです。小学校生活がここからつまらなくて、これではいけないと強く感じたんです。それで、今の職業に就いています。ねっ、みんな・・・。」先生はニコニコされています。

なるほど、私は初めて逆の立場から先生業を目指された方に出会いました。

私の中の当たり前の構図がサーッと白くなりました。あこがれが夢を育むことは、ごくごく当然なこと。自らの経験を『させたくない経験』として、強い意志のもとに貫き通す力。これこそ『芯』のある生き方なのだなと、感心させられました。

「私は小学校の時、全く元気がありませんでした。成績もビリの方でした。でも、中学へ行ってから急上昇できました。それで今があります。」担任の先生の生き生きとした表情は、そのまま子どもたちの毎日の学校生活につながっているようです。安心に包まれた表情は、学校での生活になくしてはならないものです。学校へ行きたくてならない。学校が楽しい。学校でみんなといるときが一番幸せ・・・。そんな場を先生はお作りになられているのかな。

自分が元気のなかった経験をお持ちだから、元気のない子の気持ちが痛いほどわかる。自分が勉強のできなかつた思い出があるから、勉強で困っている子の気持ちが痛いほどわかる。

子どもたちを救いたい・・・。その一念で今を生きている・・・。

久しぶりにさわやかな方にお目にかかれたことを、私は暖かい思い出としてしまっておきたいと思います。

私自身も、全く同じ思いで子どもたちと接していることに自信を深めたと同時に、これからは試行錯誤の毎日が続くのだなと襟を正す気持ちでいっぱいです。

受験シーズンも終わりを告げようとしています。目的を達成した子。達成できなかった子。様々な人生です。もっとも大切なことは、目的に向かってどれだけ前向きな自分があったのか。それを反省して見ることです。目標が自分のレベルより低く設定された人は、本当に前向きだったのでしょうか。だめでもいい、がむしゃらに向かってみたい。その気持ちのまま最後まで歩ききった結果、だめだった。前者後者、どちらが人として評価できるのでしょうか。

ただ一度の人生、思いのままに生きてみる。思ったときが歩くとき。だめだったら・・・どうしよう・・・など、失敗を恐れてしまう時間の使い方はもったいないです。青春ではありません。

もし、成績という二文字に、勇猛果敢に挑むとしたなら、結果、思うようにならなかったとしたら、まず、自分のところが本当に前向きであったか、問い正してみてください。具体的に・・・。「何もしてくれなかった。」「わかるような説明をしてくれなかった。」などと、他に責任を置くようでは、成長はできないと思います。小さな勇気を持って、歩くこと。〇〇先生、目的のある人生って、素晴らしいですね。ありがとうございました。